

科目番号	科目名	琉球・沖縄文化特論		担当教員：波照間 永吉	
博国地 003	科目名 (英語)	Special Lectures on Ryukyuan and Okinawan Cultures		E-mail: e.hateruma@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2		講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
<p>琉球語を母語とする奄美・沖縄・宮古・八重山地域は“琉球文化圏”と呼ばれ、歴史的に、日本や中国、東南アジアなど周辺諸国との交流によって、個性的な文化を育んできた。例えば、この地域には、ニライカナイ（海の彼方の万物の淵源の地）という海上他界の観念があるが、同時に、オボツカグラなどの天上他界観もある。さらには地下他界観を有する地域もあり、現実的にはこれらが重層しているといえる。これらの他界観を元に御嶽信仰と呼ばれる固有信仰が発達しているわけであるが、これらの他界観と固有信仰・民俗文化がどのように展開しているかを見定めることは、琉球・沖縄文化と日本および周辺地域の文化との比較研究のために不可欠なことである。本講座では、これら琉球文化圏で創造・享受されてきた文学（首里王府編『おもろさうし』（1531～1623）など）を素材として、この地域の人々が有する他界観・神観念などの民俗文化と想念世界について考えていく。</p>					
2. 到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義で使用する『おもろさうし』や『琉球国由来記』、「(琉球国) 碑文記」など、琉球国時代の文献・金石文資料を読むことをとおして、古琉球以来の沖縄文化の基層にある問題について考える力を養う。</li> <li>・祭祀を実際に見学する機会を積極的にもち、琉球・沖縄の祭祀文化の基本的な構造や特徴を理解するとともに、その社会的意味についても考える力をつける。</li> </ul>					
3. 授業の計画と内容					
<p>第1週 講義の進め方、学習方法について説明。本講座に使う資料について説明する。</p> <p>第2週 琉球・沖縄における祭祀と文芸（琉球文化圏の固有信仰に、特に、御嶽、神女組織などについて概説する）。</p> <p>第3週 『おもろさうし』概説</p> <p>第4週 オモロ解読法について①</p> <p>第5週 オモロ解読法について②</p> <p>第6週 『おもろさうし』に現れた固有信仰①(御嶽)</p> <p>第7週 『おもろさうし』に現れた固有信仰②(神)</p> <p>第8週 『おもろさうし』に現れた固有信仰③(他界観)</p> <p>第9週 『おもろさうし』に現れた固有信仰④(ヲナリ神・女神)</p> <p>第10週 『おもろさうし』に現れた固有信仰⑤(ヲナリ神・女神)</p> <p>第11週 『おもろさうし』に現れた固有信仰⑥(王府の神女組織)</p> <p>第12週 『おもろさうし』の憑霊表現①</p> <p>第13週 『おもろさうし』の中の憑霊表現②</p> <p>第14週 碑文とオモロからみる古琉球の王府祭儀</p> <p>第15週 『おもろさうし』や碑文などからみる古琉球の宗教的世界</p>					
4. テキスト					
<p>【テキスト】</p> <p>外間守善『校注おもろさうし』（2000年・岩波書店）</p> <p>【参考文献】</p> <p>外間守善・波照間永吉『定本おもろさうし』（2002年・角川書店）、外間守善・波照間永吉『定本琉球国由来記』（1997年・角川書店）、外間守善『沖縄の神歌』（1994年・中公文庫）、比嘉康雄『神々の古層』（写真集・全12巻）（1990年～1994年・ニライ社）、比嘉康雄『沖縄 久高島』（1997年・第一書房）、沖縄古語辞典編集委員会編『沖縄古語大辞典』（1995年・角川書店）、外間守善他『南島歌謡大成 I～V』（1980年・角川書店）、玉城政美『南島歌謡論』（1991年・砂子屋書房）、外間守善『南島文学論』（1994年・角川書店）、波照間永吉『南島祭祀歌謡の研究』（1999年・砂子屋書房）、玉城政美『琉球歌謡論』（2010年・砂子屋書房）</p>					

5. 準備学習
毎回の講義に向けて事前準備を欠かさないこと。特に講師（波照間永吉）の既発表論文などによって事前の学習をすること。地域における伝統的祭祀について可能な限り実地に観察する。
6. 成績評価の方法
講義時間における知識習得のレベルおよび期末のレポートで総合的に判断する。講義への取り組み（報告、討論等）など平常の受講態度についても評価する。
7. 履修の条件
特になし。但し、テキストの準備は万全であること。また、事前学習を十全に行うこと。
8. その他
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。

科目番号	科目名	琉球文学特論		担当教員：照屋 理	
博国地 004	科目名 (英語)	Special Lectures on Ryukyuan Literature		E-mail: m.teruya@meioru.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2	508	火・木1限
1. 授業の概要					
<p>琉球とは、かつて琉球国があった時代とその地域、琉球文学とは、基本的に琉球国時代に琉球国内で生まれ、育まれた文学を意味する。具体的に挙げると、オモロ (『おもろさうし』) に代表される呪術文学、奄美・沖縄・宮古・八重山地域で歌い継がれている古謡や琉歌に代表される叙事・抒情文学、そして組踊に代表される劇文学等である。</p> <p>本講では、それらの文学領域の中でも、特に『おもろさうし』以外の呪術文学 (奄美のタバエ、ナガレ歌、沖縄のミセセル、オタカベ、宮古のカンプツ、タービ、八重山のカンプツ、ニガイフツ等) および叙事・抒情文学、そして劇文学に焦点を当てて追究する。なお、受講生には主体性を求める。</p>					
2. 到達目標					
<p>いわゆる琉球文化圏で生まれ育まれた口承・筆録文芸作品群について、解釈の手助けとして各種方言辞典や論考等を読みこなし、使いこなす力を身に着けること、および、逐語訳から更に踏み込んで鑑賞できる力を身に着けることを到達目標とする。</p>					
3. 授業の計画と内容					
<p>第1週 琉球文化圏における口承・筆録文芸概説 (南島祭祀と神歌文化)</p> <p>第2週 口承・筆録文芸研究方法論① (歌形論1)</p> <p>第3週 口承・筆録文芸研究方法論② (歌形論1)</p> <p>第4週 口承・筆録文芸研究方法論① (モチーフ論1)</p> <p>第5週 口承・筆録文芸研究方法論② (モチーフ論2)</p> <p>第6週 口承・筆録文芸研究方法論③ (歌唱法論1)</p> <p>第7週 口承・筆録文芸研究方法論④ (歌唱法論2)</p> <p>第8週 口承・筆録文芸研究方法論⑤ (表現論)</p> <p>第9週 研究各論 (受講生発表) ①</p> <p>第10週 研究各論 (受講生発表) ②</p> <p>第11週 研究各論 (受講生発表) ③</p> <p>第12週 研究各論 (受講生発表) ④</p> <p>第13週 研究各論 (受講生発表) ⑤</p> <p>第14週 研究各論 (受講生発表) ⑥</p> <p>第15週 研究各論 (受講生発表) ⑦</p> <p>第16週 研究各論 (受講生発表) ⑧&amp;レポート提出</p>					
4. テキスト					
適宜指示する。					
5. 準備学習					
参考文献を事前に読むこと。					
6. 成績評価の方法					
<p>レポートと授業への取り組み (報告、討論等) によって評価する。</p> <p>レポート (50%)、授業への取り組み (50%)</p>					
7. 履修の条件					
<p>担当教員は特論科目を大学院博士課程において本格的な研究方法等を身につける科目と考えている。受講生には徹底的な事前学習・調査を求める。</p>					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	南島民俗文化特論		担当教員：山里 純一	
博国地 005	科目名 (英語)	Special Lectures on Ethnic Cultures of Southern Islands		E-mail: j.yamazato@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2		講義後の1時間程度
3. 授業の概要					
南島（奄美・沖縄）の民俗文化について、まじない、星と風、信仰習俗などを主たるテーマとして取り上げる。特有の精神風土に根ざしたまじない習俗について、文献史料の発掘とフィールドワークの成果を活かし、中国・日本との比較も視野に入れながら考察する。また南島の地理的環境がもたらす天文・自然と人々の暮らしについて、さらに中国・日本などの外来文化が受容され独自の展開を見せる民俗文化についても見ていく。					
4. 到達目標					
日本本土と違った南島社会の民俗文化の有り様について知識を深める。 固有の文化と外来文化が織りなす南島の民俗文化について理解する。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 オリエンテーション - 南島の民俗文化 -					
第2週 呪文と呪歌					
第3週 呪物と様態					
第4週 文字の呪力と呪符木簡					
第5週 沖縄のフーフダ（符札）① 種類と機能					
第6週 沖縄のフーフダ② 起源と変容					
第7週 まじないと民俗① 人生儀礼をめぐるまじない					
第8週 まじないと民俗② 建築儀礼とまじない					
第9週 まじないと民俗③ 自然とまじない					
第10週 星と人々の暮らし① 北斗信仰					
第11週 星と人々の暮らし② 農業と星					
第12週 風の用語と伝承					
第13週 天文知識と風の関係					
第14週 外来の神々と信仰習俗					
第15週 『四本堂家礼』と沖縄の民俗					
4. テキスト					
参考文献：山里純一『沖縄のまじない』（ポーターインク、2017）、山里純一『呪符の文化史 - 習俗に見る沖縄の精神文化』（三弥井書店、2004）、山里純一「沖縄における星の信仰」『沖縄民俗研究』34号、窪徳忠『中国文化と南島』（第一書房、1981）、窪徳忠『目でみる沖縄の民俗とそのルーツ』（沖縄出版、1990）、花部英雄『まじないの文化誌』（三弥井書店、2014）					
5. 準備学習					
参考文献に目を通しておく。					
6. 成績評価の方法					
レポートと授業への取り組み（報告、討論等）によって評価する。 レポート（70%） 授業への取り組み（30%）					
7. 履修の条件					
なし					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	中国琉球関係史特論		担当教員：赤嶺 守	
博国地 006	科目名 (英語)	Special Lectures on the History of Sino-Ryukyu Relations		E-mail: m.akamine@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2		講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
琉球・沖縄の歴史的なターニングポイントは、同時に東アジア社会全体の構造的変動というターニングポイントに重なっている。授業では、そうした東アジア社会の一員としての琉球・沖縄社会における歴史的諸相を詳しく考察する。					
2. 到達目標					
東アジアにおけるコーナーストーンとしての琉球・沖縄の歴史的な位置づけについて理解を深める。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 Introduction : 中国琉球関係史研究序論					
第2週 主要中国琉球関係史研究論文・著作の研究評価					
第3週 主要中国琉球関係史研究論文・著作の研究評価					
第4週 主要中国琉球関係史研究論文・著作の研究評価					
第5週 主要中国琉球関係史研究論文・著作の研究評価					
第6週 主要中国琉球関係史研究論文・著作の研究評価					
第7週 基礎一次史料の解析及び引用の手法					
第8週 基礎一次史料の解析及び引用の手法					
第9週 基礎一次史料の解析及び引用の手法					
第10週 基礎一次史料の解析及び引用の手法					
第11週 期末研究論文テーマの設定及び学術意義・独創性の検討					
第12週 期末研究論文テーマの理論構築・展開のプロパーザル・指導					
第13週 期末研究論文テーマの理論構築・展開のプロパーザル・指導					
第14週 期末研究論文テーマの理論構築・展開のプロパーザル・指導					
第15週 期末研究論文の最終討論					
4. テキスト					
参考文献：内容が多岐にわたるので、担当教員が授業の前に必要な文献を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
紹介された授業に関わる文献を受講前に一通り目を通しておくこと。					
6. 成績評価の方法					
授業への取り組み（報告、討論等）によって評価する。					
7. 履修の条件					
基礎一次史料については、多くが漢文史料であることから、それを読み込む一定の読解力を有すること。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	アメリカ環境文学特論		担当教員：山里 勝己	
博国地 007	科目名 (英語)	Special Lectures on American Environmental Literature		E-mail:ka.yamazato@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2	学長室	授業終了後、または予約による
1. 授業の概要					
アメリカ環境文学を中心に、環境文学の生成と発展及びそれに伴う研究史の展開を概観し把握すると同時に、研究上の諸問題と21世紀の最先端の研究課題について考察する。特に、アメリカ環境文学の主要な作者と研究成果を検討しつつ、独自の研究の可能性を探る。発表・討論の一部を英語で行う。					
2. 到達目標					
環境文学一般及びアメリカ環境文学の基本的な概念、枠組、主要作品、研究史の理解、21世紀における新たな研究の展開と可能性の把握、独自の視点及び研究の探求等を通して、アメリカ環境文学に関する研究を深化する。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 Introduction: 環境文学論序説					
第2週 アメリカ環境文学の生成と発展: 主要作家・作品論					
第3週 アメリカ環境文学の生成と発展: 主要作家・作品論					
第4週 アメリカ環境文学の生成と発展: 主要作家・作品論					
第5週 アメリカ環境文学の生成と発展: 主要作家・作品論					
第6週 アメリカ環境文学研究史: 1950年代-1960年代 代表的な先行研究の概観及び分析					
第7週 アメリカ環境文学研究史: 1970年代-1980年代 報告: 代表的な先行研究の概観及び分析					
第8週 アメリカ環境文学研究史: 1990年代-2000年 報告: 代表的な先行研究の概観及び分析					
第9週 アメリカ環境文学研究史: 2000年以降 報告: 代表的な先行研究の概観及び分析					
第10週 独自テーマの設定・討論・検討					
第11週 独自テーマの設定・討論・検討					
第12週 作品分析及び発表・ディスカッション					
第13週 期末論文中間発表(1)					
第14週 期末論文中間発表(2)					
第15週 期末論文最終発表、まとめ					
4. テキスト					
参考文献: Gary Snyder, <i>Practice of the Wild</i> (1990)、Snyder, <i>A Sense of Place</i> (1995)、Branch and Slovic, eds. <i>The ISLE Reader; Ecocriticism</i> , 1993-2003、山里勝己『場所を生きるーゲーリー・スナイダーの世界』(2006)、その他、環境思想史関係の文献を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
主要作品の熟読、参考文献の分析と理解、環境思想史等の概要の把握につとめる。					
6. 成績評価の方法					
授業への取り組み(報告、討論等)と期末論文の完成度によって評価する。 期末論文(60%) 授業への取り組み(40%)					
7. 履修の条件					
文献を読みこなし、発表の一部を英語で行うための英語力を有すること。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	中南米地域文化特論		担当教員：住江 淳司	
博国地 008	科目名 (英語)	Special Lectures on Latin American Culture and Area Studies		E-mail:j.sumie@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2	505	火：10:30-12:00 金：13:00-14:30
1. 授業の概要					
<p>中南米地域（特にブラジル）の歴史と文化について、社会史の観点から考察を深化させる。加えて資料の博捜方法について説明する。</p> <p>また、本講義では、異文化接触による現象である文化変容が、一つの文化の内部で起こる文化の変化であるのに対して、文化触変は外来の文化要素が受容されたときに起こる文化の変化であることに注目する。</p>					
2. 到達目標					
授業の内容に関する質疑応答に応じられたか、又は指摘された問題点について、克服する努力を行ったかを到達目標とする。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 社会史の課題と方法 第2週 歴史的思考とその位相 第3週 社会史における集合心性 第4週 「一味神水」と日常態 第5週 歴史人口学 第6週 文化の新しい歴史学 第7週 資本主義の文化 第8週 文化触変とは 第9週 文化変容について 第10週 共生と共棲 第11週 国際文化論 第12週 拒絶と黙殺 第13週 置換について 第14週 同化統合と編入統合 第15週 融合統合と隔離統合					
4. テキスト					
参考文献： 周辺領域への目配りも怠らないように配慮して、進捗状況に応じて適宜、提示する。					
5. 準備学習					
できるだけ多くの関連文献を読破し、当該分野の研究を整理して授業に臨むこと。					
6. 成績評価の方法					
授業中の討議への参加とその取り組み状況（報告、討論等）（40%） 授業中の発表会の完成度（60%）					
7. 履修の条件					
中南米地域の地域文化に興味のある学生を優先する。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	東アジア地域文化特論		担当教員：菅野 敦志	
博国地 009	科目名 (英語)	Special Lectures on East Asian Culture and Area Studies		E-mail:sugano@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2	507	火 6 限目 木 3 限目
1. 授業の概要					
<p>本講義は、東アジアにおける国家・政治・文化に関する理解を深めるため、各国・地域が経験してきた国民国家形成および国民国家史の創出に関する比較・検討を行う。本講義は主に中華圏の社会と地域を検討対象とするが、特に台湾や香港といった“周縁”的な地域を沖縄との比較の視座から分析することで、周辺からの地域研究とその手法について体得できるようにする。</p>					
2. 到達目標					
<p>東アジアにおける国家・地域の比較研究を通じて、当該地域における国民国家形成の個別性と普遍性についての理解を深める。</p>					
3. 授業の計画と内容					
<p>第1週 インTRODクシヨン  第2週 地域研究とアジア (1)：日本のアジア研究とその歴史・戦前  第3週 地域研究とアジア (2)：日本のアジア研究とその歴史・戦後  第4週 地域研究とアジア (3)：日本におけるアジア研究の新動向  第5週 地域研究としての中国 (1)：中華民国史と国民党による国民国家建設  第6週 地域研究としての中国 (2)：中華人民共和国史と共産党による国民国家建設  第7週 地域研究としての中国 (3)：中華民国史と中華人民共和国史の相克  第8週 地域研究としての台湾 (1)：日本統治時代をめぐる研究とその変容  第9週 地域研究としての台湾 (2)：戦後初期政治研究とイデオロギー  第10週 地域研究としての台湾 (3)：中華民国史と台湾史の相克  第11週 地域研究としての台湾 (4)：創られる国民国家論と政治性  第12週 地域研究としての香港 (1)：香港住民と香港史  第13週 地域研究としての香港 (2)：香港研究と两岸関係  第14週 東アジアにおける国民国家建設論の回顧と展望  第15週 まとめ</p>					
4. テキスト					
<p>若林正文『台湾の政治—「中華民国台湾化」の戦後史』（東京大学出版会、2008年）  菅野敦志『台湾の国家と文化—「脱日本化」・「中国化」・「本土化」』（勁草書房、2011年）  菅野敦志『台湾の言語と文字—「国語」・「方言」・「文字改革」』（勁草書房、2012年）  林泉忠『「辺境東アジア」のアイデンティティ・ポリティクス—沖縄・台湾・香港』（明石書店、2005年）  その他については授業中に提示する。</p>					
5. 準備学習					
<p>事前にテキスト課題を读了し、ディスカッションに備えられるようにすること。</p>					
6. 成績評価の方法					
<p>活動状況【報告・討論等】(40点)、レポート(30点) プレゼンテーション(30点)  上記を総合して評価する。</p>					
7. 履修の条件					
<p>特になし。</p>					
8. その他					
<p>授業内容は状況に応じて変更の可能性はある。</p>					



科目番号	科目名	東南アジア地域文化特論		担当教員：山田 均	
博国地 010	科目名 (英語)	Special Lectures on Southeast Asian Culture and Area Studies		E-mail:yamathai@ezweb.ne.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期 (集中講義)	2	非常勤控室	講義終了後
1. 授業の概要					
<p>受講者の興味に応じて、東南アジア地域に行われている文化の諸相を解説し、比較し、理解を深める。東南アジアの文化についての資料や論文 (和文または英文) を丁寧に読み、考察の材料となすこともある。当面は宗教と食文化を二つの柱として扱うが、受講者の専門分野に関連した事象を優先的に扱いたい。</p>					
2. 到達目標					
<p>東南アジア地域の中に行われている文化の諸相の中から、宗教と食文化を取り上げ、地域について深い理解を実現する。</p> <p>また、生活の中の文化を研究する方法論についても扱う。</p>					
3. 授業の計画と内容					
<p>第1週 インTRODククション</p> <p>第2週 上座部仏教 (東南アジアにおける受容史)</p> <p>第3週 上座部仏教 (政治と上座部仏教)</p> <p>第4週 上座部仏教 (社会と上座部仏教)</p> <p>第5週 イスラーム (東南アジアにおける受容について)</p> <p>第6週 イスラーム (東南アジアのイスラーム社会と政治)</p> <p>第7週 中国人の宗教 (東南アジアにおける受容)</p> <p>第8週 中国人の宗教 (東南アジア社会と華人の宗教)</p> <p>第9週 コメを食べる文化 (コメの栽培)</p> <p>第10週 コメを食べる文化 (コメの食べ方)</p> <p>第11週 発酵食品 (雲南省・アッサム州の市場を見る)</p> <p>第12週 発酵食品 (ミャンマー・タイの発酵食品)</p> <p>第13週 発酵食品 (ベトナム・カンボジアの発酵食品)</p> <p>第14週 スパイスについて (南アジアのスパイス)</p> <p>第15週 スパイスについて (東南アジアのスパイス)</p> <p>第16週 まとめ</p>					
4. テキスト					
<p>先行研究をはじめ、写真などの資料を活用する。</p> <p>参考文献：教場で指示する</p>					
5. 準備学習					
<p>準備学習としての特別なものは必要ないが、好奇心と多読はかかせない。</p>					
6. 成績評価の方法					
<p>ノートや講義での積極性、意見の論理性などを総合的に判断して評価する。</p>					
7. 履修の条件					
<p>特にないが文献を精読したり、他分野の本を多読したりすることを厭わないこと。</p>					
8. その他					
<p>週末2回分を使って、4日間でおこなう集中講義である。</p> <p>具体的な日にはおって決めるが、可能な限り受講生の都合にも配慮して日程を決めたいと考えている。</p> <p>講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。</p>					

科目番号	科目名	言語学特論		担当教員：中村 浩一郎	
博国地 011	科目名 (英語)	Special Lectures on Linguistics		E-mail:ko.nakamura@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2	501	月曜日 5 限 木曜日 5 限
1. 授業の概要					
<p>世界で公表されている言語学に関する論文・文献を批判的に講読・問題点を指摘し、新たな理論を構築するための方法を教授する。</p> <p>具体的には、言語データに関する意味論的・統語論的アプローチの方法を教授する。形式は受講生のプレゼンテーション 45 分、担当教員との議論 45 分である。</p>					
2. 到達目標					
<p>理論言語学に関する専門的知識を身につけ、言語現象、言語データに対して理論的アプローチをすることができる。</p> <p>日本語、英語、中国語、韓国語など世界の諸言語における意味論・統語論インターフェース理論に関する知識を深化させる。</p>					
3. 授業の計画と内容					
第1週	オリエンテーション：受講生の興味に合わせて、分析対象言語を決定する。				
第2週	日本語(1)：日本語と世界の諸言語を比較統語論の枠組みで分析した論文を批判的に検討し、問題点を探る。				
第3週	日本語(2)：日本語-韓国語比較に特化した論文・文献を批判的に検討し、問題点を探る。				
第4週	日本語(3)：引き続き、日本語-韓国語比較に特化した論文・文献を批判的に検討し、問題点を探る。				
第5週	日本語(4)：日本語-中国語比較に特化した論文・文献を批判的に検討し、問題点を探る。				
第6週	日本語(5)：引き続き、日本語-中国語比較に特化した論文・文献を批判的に検討し、問題点を探る。				
第7週	日本語(6)：日本語-アルタイ語系言語を比較した論文・文献を批判的に検討し、問題点を探る。				
第8週	日本語(7)：日本語-ウラル語系言語を比較した論文・文献を批判的に検討し、問題点を探る。				
第9週	中間のまとめ：日本語と世界の諸言語の類似点、共通点を探り、普遍性、多様性に関する理論を構築する。				
第10週	英語(1)：英語とロマンス語系言語を比較した論文・文献を批判的に検討し、問題点を探る。				
第11週	英語(2)：引き続き英語とロマンス語系言語を比較した論文・文献を批判的に検討し、問題点を探る。				
第12週	英語(3)：英語とゲルマン系言語を比較した論文・文献を批判的に検討し、問題点を探る。				
第13週	英語(4)：引き続き英語とゲルマン系言語を比較した論文・文献を批判的に検討し、問題点を探る。				
第14週	英語(5)：英語とスラブ系言語を比較した論文・文献を批判的に検討し、問題点を探る。				
第15週	まとめ：世界の諸言語を比較対照したことにより発見したことのまとめと新たな理論構築への足がかりを作る。				
4. テキスト					
<p>主要参考文献: Fery, Caroline and Shinichiro Ishihara (2016) <i>The Oxford Handbook of Information Structure</i>, Oxford UP.</p> <p>Shlonsky, Ur (2015) <i>Beyond Functional Sequence</i>, Oxford UP.</p> <p>Tsai, Wei-Tien Dylan (2015) <i>The Cartography of Chinese Syntax</i>. Oxford UP.</p>					
5. 準備学習					
<p>受講生は毎回批判的に検討する論文、文献を精読し、発見点、問題点をまとめてレジュメを作成しておくこと。更に、担当教員が適宜紹介する文献を読み、比較統語論に関する理解、知識を深化させておくこと。</p>					
6. 成績評価の方法					
<p>毎回のプレゼンテーション：50 点</p> <p>最終レポート：50 点</p> <p>合計：100 点</p>					
7. 履修の条件					

特になし。

8. その他

世界の様々な言語の現象に対して常に興味を抱き、問題意識を持つことが必須である。  
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。

科目番号	科目名	英語教育特論		担当教員：渡慶次 正則	
博国地 012	科目名 (英語)	Special Lectures on English Education		E-mail:m.tokeshi@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2	512	月の4限、金の4限
1. 授業の概要					
アジア、北米、ヨーロッパの英語教育政策や英語の言語的変種、第2言語習得論、英語教授法などの理解に基づき、日本の英語教育について望ましい方向性をディスカッションを通して探る。					
2. 到達目標					
1) アジア、北米、ヨーロッパの英語教育政策、英語の言語的変種を理解し、日本の英語教育政策を多角的に考えられる。					
2) 第2言語習得論と英語教授法の日本の英語教育政策への影響を理解する。					
3) コミュニケーション能力や小学校英語教育、新大学入試などの現在の日本の英語教育問題を理解し、ビジョンを持つ。					
4) 上の目標の発展として、日本の英語教育への方向性を示唆できる。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 オリエンテーション、英語教育に係る諸論争を探る					
第2週 標準英語とアジア英語 (World Englishes, English as a lingua franca など)					
第3週 英語帝国主義とグローバリゼーション					
第4週 アジアの英語教育政策					
第5週 ヨーロッパと米国の言語参照枠の比較 (CEFR と ACTFL)					
第6週 カナダのイマージョングラムと Focus on form					
第7週 日本の英語教育史と英語教育政策					
第8週 英語教授法と授業 (Audio-lingual Method と Communicative Language Teaching など)					
第9週 第2言語習得研究と英語教育					
第10週 新大学入試と英検、TOEFL, GTEC					
第11週 日本人の英語コミュニケーション能力と動機付け研究					
第12週 ICT と英語教育					
第13週 小学校英語教育と臨界期仮説					
第14週 学生の発表とディスカッション					
第15週 学生の発表とディスカッション、レポート提出					
4. テキスト					
参考文献：講義で随時、資料を配布する。					
5. 準備学習					
事前に配布された資料を読み、講義でのディスカッション・トピックを考える。					
参考文献					
Common European Framework of Reference (Council of Europe, 2001)					
ACTFL Proficiency Guidelines (2012)					
Approaches and Methods in Language Teaching (Richards & Rogers (2001)					
The Study of Second Language Acquisition (Ellis, 2008)					
Global Englishes in Asian Context (Murata & Jenkins, 2009 )					
6. 成績評価の方法					
学生の発表 30点 レポートの提出 (5,000字程度) 70点 合計 100点					
7. 履修の条件					
基本的に英語で講義するので、英語が堪能な学生が望ましい。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	現代沖縄教育特論		担当教員：嘉納 英明	
博国地 013	科目名 (英語)	Special Lectures on Modern Okinawan Education		E-mail:kano@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2	510	月曜日 10:30~12:00 火曜日 10:30~12:00
1. 授業の概要					
戦後日本の教育は、社会の成熟とともに、幾多の変遷を遂げてきた。一方、戦後 27 年間、米国の施政権下にあった沖縄の教育は、日本本土とのそれとは異なる歩みをみせた。授業では、特に、沖縄の教育委員会制度や教員養成制度に関わる論点を提示し、沖縄の地域社会における教育諸問題についても理解を深める。なお、昨今の沖縄の教育・福祉をめぐる諸問題（学力問題、平和教育、教科書問題、貧困と格差の問題）についても議論する。					
2. 到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦後沖縄の教育史（教育制度を含む）についての基本的な事項を理解することができる。</li> <li>・米国施政権下の沖縄と日本の戦後教育史（教育制度を含む）の比較検討を通して、それぞれの特質を理解することができる。</li> </ul>					
3. 授業の計画と内容					
第1週 オリエンテーション、教育に係る諸問題を探る 第2週 沖縄教育の概観 第3週 戦後教育改革と教育行政制度改革 第4週 沖縄の公選制教育委員会制度の成立 第5週 教育税制度の創設と運用 第6週 沖縄の教員養成制度－沖縄文教・外国語学校の設立－ 第7週 学生の発表とディスカッション 第8週 米軍基地と子どもの人権 第9週 沖縄の教師と復帰運動 第10週 学校・教師・地域の連携活動～教育隣組・子ども会～ 第11週 沖縄の就学前教育・保育問題 第12週 沖縄の学力問題 第13週 沖縄の平和教育実践 第14週 沖縄の教科書問題 第15週 子どもの貧困と格差					
4. テキスト					
参考文献：以下の文献を参照しつつ、授業内容に応じて、適宜、資料を配布します。 嘉納英明著『戦後沖縄教育の軌跡』那覇出版社、1999年。 嘉納英明著『沖縄の子どもと地域の教育力』エイデル研究所、2015年。 嘉納英明著『子どもの貧困問題と大学の地域貢献』沖縄タイムス社、2017年。					
5. 準備学習					
・課題については、事前にまとめ、発表又は提出できるようにする。					
6. 成績評価の方法					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業における積極的な姿勢（発言等） 40点</li> <li>・最終レポートの提出 60点</li> </ul>					
7. 履修の条件					
・教育に対して関心のある者の受講を歓迎する。					
8. その他					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に議論に参加する受講生を歓迎します。</li> <li>・受講生の関心に応じて、シラバス内容の変更もあり得ます。その際は、事前に調整します。</li> </ul>					

科目番号	科目名	アジア太平洋国際関係特論		担当教員：高嶺 司	
博国地 014	科目名 (英語)	Special Lectures on International Relations of the Asia-Pacific		E-mail: t.takamine@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2	503	火2限、木5限
1. 授業の概要					
<p>本特論は、急速な経済成長と科学技術力の進歩を基にグローバル社会における存在感を飛躍的に高めているアジア太平洋地域の国際関係を考察する。具体的には、日本、アメリカ、ロシア、中国、韓国、台湾、北朝鮮、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、及びASEAN 諸国などによって形成されるダイナミックかつ複雑なアジア太平洋地域の国際関係について、批判的に分析する。特に、現在この地域において顕著な諸問題（外交、安全保障、通商、人権、民主化、環境破壊、貧困、開発、エネルギー、テロリズム等）の詳細なケーススタディーを通して、その背景と要因を的確に把握するための考察を重ねる。さらに、これらアジア太平洋地域の諸問題を、国際関係理論を応用して科学的な分析を試みることにより、論理的な解決方法を検討することを学ぶ。</p>					
2. 到達目標					
<p>受講生が、アジア太平洋地域の国際情勢を理解し、現代における問題点や課題を的確に把握する能力を身につける。最終的には、社会や政府にとって有益かつ実施可能な政策提言を行えるようになることを目標とする。</p>					
3. 授業の計画と内容					
<p>第1週 国際政治史のなかのアジア太平洋  第2週 分析手段としての国際関係理論  第3週 アジア太平洋国際関係の現状と課題  第4週 日本・沖縄とアジア太平洋  第5週 アメリカとアジア太平洋  第6週 ロシア（旧ソビエト連邦）とアジア太平洋  第7週 中国とアジア太平洋  第8週 台湾とアジア太平洋  第9週 韓国とアジア太平洋  第10週 北朝鮮とアジア太平洋  第11週 オーストラリアとアジア太平洋  第12週 ニュージーランドとアジア太平洋  第13週 カナダとアジア太平洋  第14週 ASEAN 諸国とアジア太平洋  第15週 総括</p>					
4. テキスト					
<p>特にテキストは定めず、必要に応じて参考文献（下記参照）を使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Walter Carlsnaes, Thomas Risse and Beth A. Simmons (eds.), <i>Handbook of International Relations</i>, Los Angeles, London: Sage, 2013.</li> <li>・John Baylis, Steve Smith and Patricia Owens (eds.), <i>The Globalization of World Politics</i>, Oxford: Oxford University Press, 2011.</li> <li>・Samuel P. Huntington, <i>The Clash of Civilization: and the Remaking of World Order</i>, York, London: Simon and Schuster Paperbacks, 1996.</li> <li>・高嶺司『日本の対中国関与外交政策』明石書店, 2016年.</li> <li>・日本国際政治学会編 『東アジア新秩序への道程』日本国際政治学会（有斐閣）, 2009年.</li> </ul>					
5. 準備学習					
<p>事前に配布する参考文献や講義資料に目を通してから受講することが望ましい。</p>					
6. 成績評価の方法					
<p>授業中の議論・討論への貢献度 (50%)    Essay (小論文) (50%)    合計 100%</p>					

7. 履修の条件
特になし
8. その他
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。